



よつば便い

平成 25 年 3 月
よつばの会発行
NO. 14

「講演会」

平成二十五年一月十九日・二月二日の二回、「岡輝公民館」との共催で、「発達障がい理解講座」を開催しました。

おかやま発達障害者支援センターの重藤知子先生に講演をお願いしたのです。

一月十九日 「発達障がいについて」
※身近なところで見られる子どもの姿
六通りの子どもの姿を通して、子どもたちがこのような行動をとる理由を分かりやすく話して下さいました。

※ 子どもたちの行動の背景を考える
子どもは情報をキャッチ出来ているのか
子どもは「今、何をするか」「いつまでするのか」分かっているのか
子どもは「どうやってすればいいか」分かっているのか

大人の指示を理解しているのか

※ サポートの視点とは

子どもの多様性（特性）を理解する
子ども自身が困っていることを解る
子どもの特性に配慮した関わりを工夫する

大人が対応に困った時に、相談出来る人をもつ

発達障がいについて理解出来るように
分かり易い例を上げながらお話をして下さいました。

アンケートからの抜粋

※ わかったこと、気づいたことは何ですか？

・「理解していないな」と思った時に、言葉で丁寧に教えて、具体的に伝えれば良いのだと、今まで考えていました。今までは、もつと視覚的に短く、順番に1つずつ伝えるという方法を使って理解して貰おうと思った。
・発達障がいの子どもの達の特徴や感じ方。どのようにサポートしたら良いのか。褒めると言う事の大切さ。
・発達障がいについて、分かり易く教えて頂きとても勉強になりました。目に見える行動の背景にある特性を考える事が、子供をサポートする上でとても大切である事が良くわかりました。とても難しい事と思いましたが、一番に理解、気づきの為に発達障がいについて知る事だと感じた。
・子どもの特性を先ず理解すること。子ども自身が困っている事を解ることがと

ても大事だとわかりました。
・発達障がいの基本的な特徴や心理を理解する事が出来た。

・子どもの視点が大切だと気がつきました。

・子どもが解る為にどうやって伝えたら良いかを考える。褒める事が良い。

・多様な特性の例で、状況や支援のあり方の相違が、分かり易く参考になりました。

・難しい問題と言う事が判った。小・中学生への接し方について考えを変える事への気づき。

・具体的な場面に基づいて、どうしたら良いんだろうと困っていたのですが、例を上げて説明して下さい、良く分かりました。「できないことを出来るようにする」事のみにとらわれない」と言う言葉が心に残りました。

（なかなか「出来る事」「良い所」が見付けられないので）
・本人の視点に先ず立つて

みると言う事。

・発達障がいの子どもに限らず、全ての子どもに接する時に大切にすべき事を学びました。様々な角度から児童理解に努めていきたいと思いました。

・生まれつきの障害であり、親の所为ではないこと。彼らに接する方法が理解出来ました。

※ もつと知りたいことがあればお書きください。

・身近な人（大人）がアスペルガーかな？もしかしたら・・・と思ったら、発達障害情報センターで勉強してみます。

・発達障がいを持つ親御さんの気持ち。回りの人が出来る事など。

・今回の講座の中で、Aくん、Bくん、の例で具体的な伝え方を学べた事が良かったです。その子によって個性が違うので、色々な伝え方の方法が知りたいです。

・学校生活に適応できず、うつや不登校になった子供にどうやって、何に重点をおいて関わったら良いのか？